

**製品名:** Hec1 ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab11962

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	73kDa

## 抗原情報

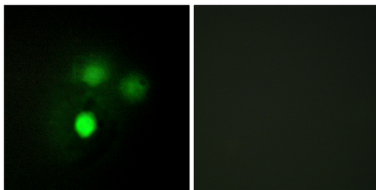
遺伝子名	NDC80
別名	NDC80; HEC; HEC1; KNTC2; Kinetochore protein NDC80 homolog; Highly expressed in cancer protein; Kinetochore protein Hec1; HsHec1; Kinetochore-associated protein 2; Retinoblastoma-associated protein HEC
遺伝子 ID	10403.0
SwissProt ID	O14777
免疫原	抗血清はヒト KNTC2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 351-400

## 背景

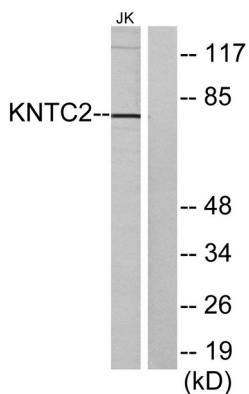
この遺伝子は、NDC80 キネトコア複合体の構成要素をコードします。コードされるタンパク質は、N 末端微小管結合ドメインと、複合体の他の構成要素と相互作用する C 末端コイルドコイルドドメインで構成されています。このタンパク質は、微小管-キネトコア相互作用を組織化および安定化する機能を持ち、適切な染色体分離に必要です。[RefSeq 提供、2011 年 10 月]、発現段階: 発現は有糸分裂期にピークに達します。機能: 染色体分離と紡錘体チェックポイント活性に不可欠な、キネトコア関連 NDC80 複合体の構成要素として機能します。キネトコアの完全性と、キネトコア外板における安定した微小管結合部位の組織化に必要です。PTM: リン酸化は細胞周期の S 期に始まり、有糸分裂期にピークに達します。NEK2 によってリン酸化されます。AURKA および AURKB によってリン酸化されることもある。類似性:NDC80/HEC1 ファミリーに属する。細胞内局在:前期後期から後期にかけて動原体に局在する。特に動原体の外板に局在する。サブユニット:NDC80 複合体の構成要素で、NDC80/HEC1、CDCA1、SPBC24、および SPBC25 からなる。NDC80 複合体は、NDC80/HEC1-CDCA1 および SPBC24-SPBC25 からなる 2 つのサブ複合体によって形成される。各サブ複合体は、個々のサブユニットのコイルドコイルドドメインを介した並行した相互作用によって形成される。四量体複合体の形成は、NDC80/HEC1-CDCA1 サブ複合体の両サブユニットの C 末端領域と、SPBC24-SPBC25 複合体の両サブユニットの N 末端領域との相互作用によって媒介される。四量体 NDC80 複合体は、両端に球状ドメインを有する細長い棒状の構造を有する。有糸分裂期に特異的に NEK2 および ZWINT と相互作用する。CENPH および MIS12 と相互作用する。AURKB、PSMC2、PSMC5、SMC1A と相互作用する可能性がある。G2 期および有糸分裂期には RB1 と相互作用する可能性がある。

## 研究分野

## 画像データ



KNTC2 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



KNTC2 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。

Hec1 ポリクローナル抗体を使用した Jurkat 細胞のウェスタン ブロット分析。

